

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	沼崎雅之
視察地	兵庫県加古川市		
調査事項	部活動地域展開に向けた取組について		
視察年月日	令和7年11月12日		
視察内容	<p>少子化や教員の負担、適切に指導できる人材確保の困難などが原因で学校部活動の持続可能性が危惧される中で、学校単位の部活動をやめて地域移行する方向性が注目されている。民間事業者への委託なども多くの自治体で採用していると聞く。そうした取り組みを精力的に進めている兵庫県加古川市を視察することで旭川市でも生かせる知見があると考え委員会での視察を実施した。</p> <p>まず前提として、加古川市で実施しているのは「部活動の地域移行」ではなく、「部活廃止・新たな地域クラブ活動の開始」であった。すなわち、部活動を学校教育から社会教育に移管する取り組みである。学校単位での部活動は廃止となり、登録団体による地域クラブとして、教員と児童生徒だけではなく地域住民有志、OB・OG、民間団体などが主体となって作る地域クラブとなる。そもそも学校単位の部活動は日本独特なシステムでもあり、欧米の地域クラブを想起させる取り組みと感じた。</p> <p>この取り組みによって学校間での部活選択肢の格差解消や、教員の負担軽減、学校間の競争意識がなくなることで楽しむことに意識が向く、新種目を増やしたいとの意見も出やすくなるなど良い効果があるとのこと。</p> <p>一方で、責任の所在があいまいにならないよう、あくまでも市の責任で実施する事業として、指導に関わるスタッフへの研修（不適切指導やハラスメントの防止、安全管理など）や活動方針の策定、スポーツ安全保険加入の徹底など市としても細心の注意を払っていると聞いた。</p> <p>今後の課題としては、種目による地域クラブの偏在によって移動の困難が生じないか、会費負担は適正か、活動場所として学校施設を利用する際に備品購入や教員の負担について学校と調整が必要であることなどが挙げられた。</p> <p>いずれにしても、冒頭述べた理由により学校単位での部活動は存続困難が想定され、地域移行は必然であると考え。不適切指導対策や日本版DBSの活用など万全の体制構築が不可欠であることは言うまでもないが、旭川市においても今後進めていくべき事柄であり、今回加古川市において具体的なスキームとそれに携わる現場化の声が聞けたことは大いに参考になった。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	沼崎雅之
視察地	東京都武蔵野市		
調査事項	武蔵野市立ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイスについて		
視察年月日	令和7年11月13日		
視察内容	<p>旭川市においては市民文化会館の建て替えが決まっているが、具体的なプランはまだ決定していない。文化ホールのあり方として、全国から注目され多くの行政視察を受け入れている東京都武蔵野市の武蔵野プレイスが参考になると思われたため視察した。</p> <p>武蔵野プレイスは、図書館機能、生涯学習・市民活動支援、青少年活動支援の機能を持つ複合施設であり、立地も JR 武蔵境駅前と人が集まる上で好条件である。</p> <p>図書館機能としては、静かな空間で資料収集や調査、読書を行う伝統的な図書館スペースに加え、こども向けの空間にスペースが多く割かれており、こども連れで日常の散歩にも来られる空間として魅力を感じた。生涯学習・市民活動支援としては、会議室や備品ロッカーなどが多く設置されており、様々な市民活動が実施しやすい場所であると感じた。加古川で視察した部活動の地域クラブ化と関連しても、文科系クラブの活動場所として非常に使い勝手がよさそうだと感じた。青少年活動支援としては、読書や飲食ができるフリースペースが多いことに加えて、卓球やボルダリング、軽音楽などが利用できる空間（旭川市でいえば宮下通 14 丁目の asobi-ba に相当する施設）も内包されていた。また、カフェスペースも賑わっており、食事メニューも充実しているように感じた。</p> <p>以上により、様々な世代が集う場となっており、中心市街地活性化の文脈でも人の回遊性を生み出す効果が大いにあると感じられた。旭川市役所新庁舎では 1 階や 9 階で自習をする中高生が多くいるため、隣接する市民文化会館で彼らがより快適に活用できるスペースを確保できることになれば若者にとっても好ましいと考える。</p> <p>市民文化会館新設に当たっては、現在の文化ホール機能だけではなく、こども若者や地域の団体が日常的に集まりたいと感じられる複合施設が必要であると感じた。1 か所に複合施設としてまとめることで、今後、市内の施設の老朽化で更新が検討される際に、それぞれに建て替えるのではなく一つにまとめることで費用の節約も図れると考える。一方で、遠方から来ることになる市民も想定され、交通手段の確保などは必要であるが、中心市街地活性化、社会教育の充実、子育て支援、若者の居場所確保など様々な政策分野をカバーできる複合施設を視察したことで、具体的なイメージをつかむことができたことは大きな成果であると感じた。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	沼崎雅之
視察地	神奈川県大和市		
調査事項	大和市文化創造拠点シリウスについて		
視察年月日	令和7年11月14日		
視察内容	<p>武蔵野プレイスと同様の先進文化ホールとして視察した。</p> <p>1007席のメインホール、272席のサブホールは新しい旭川市民文化会館のイメージとして武蔵野プレイスよりも近いと感じた一方で、非常に立派で、建設費、維持費がかかる印象を抱いた。企業6社（株式会社図書館流通センター、サントリーパブリシティサービス株式会社、株式会社小学館集英社プロダクション、株式会社明日香、株式会社ボーネルンド、横浜ビルシステム株式会社）による共同事業体「やまとみらい」が指定管理者であるが、かなり体力がある企業であることに加え、小田急線と相鉄線の大和駅から至近という好立地で年間200万人が訪れるとのこと。旭川市でも同様のものが作れるかは、いささか心もとない印象を抱いた。</p> <p>施設内は非常に充実しており、武蔵野プレイス同様に様々な世代の市民が集える居心地の良い場所であった。特に、指定管理者に加わっているボーネルンドによるこどもの遊び場は、廉価（市民であれば大人1日300円、こども2時間につき200円）で都内商業施設並みの設備と人がそろった場所であり、利用時間も9時から19時までと長く、子育て世代には非常に嬉しい施設で旭川市にも欲しいと思った。半面、やはり費用面での課題と強力な企業が指定管理者として付くかどうかポイントであり、簡単ではない。</p> <p>人口24万人の大和市は、首都圏とのアクセスも良く、高齢化率23%と比較的若い自治体で人口も増える傾向にあるなど、恵まれた条件もシリウスを設置できたことに影響しているだろう。</p> <p>大変素晴らしい施設であり見学したことで知見が広まったことは間違いないが、旭川市での実現可能性としては正直なところ心もとない印象であった。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。